

**【観光・産業グループ】**

三郷中 柳澤 真衣

私は、三郷中学校2年、柳澤真衣です。

観光・産業グループは、3人で構成され、安曇野市の農業や産業・観光について学習をしました。そこで、各議員から質問をさせていただきます。

私は農業についてお尋ねします。

安曇野市は、水田が多く、米の品質がとても良いことを学びました。しかし、若い世代が農業を生業として選択しづらいことが課題ではないかと考えます。

現在、コメの消費量が減っており、今後は販売額も減り、生産農家の生活にも悪影響を及ぼすことが考えられます。

そこで、米のよさをより多くの人に伝えるための活動をすべきだと考えました。

一つ目は、米粉パンを広げていくことです。私の学校の給食では、米粉で作られたパンが出ます。普通のパンよりモチモチ度が増して、とてもおいしく、クラスでも人気のメニューです。そんな米粉パンを、米のPR活動として利用すればよいと思います。マラソンやイベント会場等で販売し、米粉を使った料理として今後も発展していけば、米のよさが見直され、消費量が増えることにつながると思います。

二つ目は、米づくり体験の場を設置することです。農業に関心のある人が、米づくりをしたいと思った時に学ぶ場が必要となります。子供から大人まで農業について考えて、実際に体験することができれば、人とのつながりができ、農業を始めてみようという人も増えると思うからです。

その実現のため、私ができることは、市が行っているイベントに積極的に参加し、知識を深め、周りに広めることです。

そして市には、働きたい人と働き手のいない農家を結ぶための、ハローワークのような場をつくることだと思います。

そうすることで、使われていない農地が減り、米の生産も増え、消費量も増えたのならば、農家にとっての収入も増えることにつながります。

次世代に農業をつなげるには、若い世代が働かなければなりません。現代と次世代の懸け橋となる政策をとっていくことが重要になると思います。

「以上で、私からの質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。」

**【ご担当部】** 農林部

## 【観光・産業グループ】

明科中 竹田 匠吾

私は、明科中学校2年、竹田匠吾です。

私は、松くい虫被害への対策と現状についてお尋ねいたします。

私が思う課題は、松くい虫によって被害を受けた松を伐採した場合、土砂崩れを招いたり、自然破壊につながったりしないのかということです。森林の役割が崩されてしまうのではないかと危惧しています。

私の住んでいる明科には、松くい虫によって被害を受けた押野山や長峰山があります。その双方の山は、松枯れになり伐採され、一部はげ山になったことがありました。

森林には、雨粒の直撃から土壌を守り、地面が削り取られたり土砂が流れ出したりするのを防ぐ役割があります。また、土壌には樹根が張り巡らされ、崩れようとする土の量を抑える働きをしています。森林と裸地を比較したとき、流れ出る土砂の量は裸地の150分の1という報告があります。

しかし、伐採されてはげ山になってしまった時に、もしも大雨が降り、土砂崩れが起きてしまったら、近くの住民は大きな損害を受けざるを得ません。

そこで私は、土砂崩れがおきないようにするために、30cmから20cm程の鉄のくいを耐久性のあるシートに突き刺し、一定の期間を木の代わりとして保つという方法を考えました。

その実現のため、私ができることは、地域の方に関心をもってもらえるようなポスターやチラシを作り、公共の施設の許可を得て貼り出したり、配ったりしたいと思います。様々な団体が山についてのイベントを行う際に少しでも多くの人に参加し、山または松、森林について関心をもってもらえると思います。

また、市がすべきことは、山や木についてのイベントをより多く行い、市民に関心をもってもらうことだと考えます。実際に山に入り、自然とふれ合える機会を作るのも大切だと思います。そういうイベントにも小中学生が気軽に参加できるようにすれば良いと思います。

そうすることで、将来の安曇野は松くい虫の被害で伐採され、一部ははげ山になってしまったとしても、大雨などの影響で土砂崩れになることは少なくなると思います。また、山や森林、松についてのイベントを行うことで、小学生や中学生に感心をもってもらうことができると思います。

これらのような活動を続けていくことで、自然と触れ合えたり、松くい虫被害をどう立て直していくのかを考えたりする時間が増えて、安心して暮らせる環境が整えられることができると思います。

「以上で、私からの質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。」

【ご担当部】 農林部

## 【観光・産業グループ】

豊科北中 浅輪大二郎

私は、豊科北中学校2年、浅輪大二郎です。

私は、観光についてお尋ねします。

学習会では、夏は宿泊施設が満室なのに対して、それ以外の季節の客室稼働率が県内でも最下位だということを知りました。日帰りの人もいますが、仮に稼働率を観光客の人数に置き換えて考えてみると、安曇野市の課題は、冬の観光客を増やすことです。

安曇野を訪れる観光客の多くは自然そのものを求めてやって来るので、冬の魅力が感じられる企画をまだ掘り起こせていないためだと考えます。これを打開するには、冬や秋のよさを活かした企画を掘り起こす必要があります。

そこで、私は、冬でも需要が期待できる温泉を活用することや、冬の安曇野の名物になるようなイベントを作ることを考えました。

観光消費額を上げるために、宿泊代やその周辺での消費が期待できる温泉施設は、冬でも快適に過ごせます。その温泉を雄大な山々や安曇野の星空などの自然を前面に押し出して売り出せばよいと考えます。また、観光客を呼び込むために夏季のハーフマラソンの参加者に対して、冬の魅力も宣伝してもらい、温泉施設で体幹トレーニングの講座を開いてもよいと思います。さらに、冬の名物を作り国際的な雪合戦大会などを、ここ安曇野に招致してはいかがでしょうか。

そして、その実現のために、私ができることは私自身が安曇野の歴史や名所を知り、観光客を案内できるように学んでいくことです。

また、市には、今ある山岳風景投稿サイトに加え、冬の安曇野の風景も投稿してもらおう場を作り、多くの人が見て、撮って安曇野を知ることができるように広告してもらいたいです。そうすることで、人が人を呼び、市の運営においても、好循環が生まれると思います。

以上のように、私達の住む安曇野が、日本の、世界の安曇野、豊かな自然と共に生き、夏も冬も活気ある安曇野がつかれると思います。

「以上で、私からの質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。」

【ご担当部】 商工観光部